

## 7 「学習者主体の授業」の実践例はありますか

### Answer

「学習者主体の授業」実現プロジェクトの実践の中から、単元計画デザイン、一単位時間の授業、授業改善を図るための校内研修について、それぞれの具体的な実践の例を紹介します。

実践例 1

「学習者主体の授業」を実現する単元計画デザインの実践例  
 「学習者主体の授業」実現プロジェクト実践校 長島町立平尾中学校  
 中学校社会科 第3学年 単元名「私たちの暮らしと経済」（全 23 時間）

#### 単元計画デザインのポイント

- 学習内容の構造化を図り、各単位時間の学習を基に「日本経済の重要課題」について自分の考えを深める単元構成とする。
- 単元を通した学習課題「日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか」を設定し、「対立と合意」や「効率と公正」などの現代社会の見方・考え方を働かせながら、多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。
- 単元の導入では、コンビニエンスストアの立地を考察する活動を行うことで、経済学習への興味・関心を高める。コンビニエンスストアの立地を、経営の効率や消費者の利便性等の視点から考察する活動を通して、単元の学習内容（企業の活動や消費生活、生産と労働など）を概観させる。
- 生徒が単元のワークシートで学習履歴を参照し、単元を通した学習課題を意識しながら学習を進められるようにする。

実践例 2

#### ■ 単元のオリエンテーション（第1時） ⇒ p.18 参照



なるほど。コンビニエンスストアがある場所に印がついているのか。

長島町、出水市、阿久根市の地図に印をつけてみました。何の分布を表しているでしょうか。



#### 【本時の学習課題】

コンビニエンスストアをどこに開店したらよいか。

あなたは、大手コンビニエンスストアに勤める社員で、次期出店計画を立てることになったとします。A市、B市、C市のうち1か所にコンビニエンスストアを出店しようと考えています。どこに出店したらよいでしょうか。その際、経営者、客（消費者）、店員（労働者）などさまざまな立場に立って考え、できるだけみんなに愛される店を目指しましょう。（教科書掲載資料）



どの場所に出店したらよいだろう。迷うなあ。

出店場所を考える活動を通して感じたことや気付いた点を整理しよう。



【単元を通した学習課題】を設定し、単元の学習の見通しをもつ。

日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか。



私たちの消費活動はどのような仕組みに支えられているのかな。

#### 💡 ポイント 💡

- 生徒にとって身近なコンビニエンスストアの立地を考察する活動を通して、経済学習への興味・関心を高めさせるとともに、経済を理解するための視点を意識させ、単元の学習内容についての見通しをもたせています。

実践例 3

## ■ 消費生活からみた日本経済（第2時～第5時）

私たちの消費生活は、経済とどのように関わっているのだろうか。  
商品はどういうようにして消費者のもとに届くのだろうか。



卸売業者や小売業者は、労力や費用を抑えるために、流通の合理化を進めていることが分かりました。

## ■ 生産と労働からみた日本経済（第6時～第10時）

私たちの生活に必要なものは、どのように生産されるのだろうか。  
企業にはどのような役割があり、どのような社会的責任があるのだろうか。



企業の目的は、利潤を得て、それをできるだけ大きくすることなのだ。  
企業は、社会的責任を果たすための取組をしているのだ。

## ■ 市場経済の仕組みと金融からみた日本経済（第11時～第16時）

市場経済において、価格はどのように決まるのだろうか。  
金融は、私たちの社会でどのような役割を果たしているだろうか。



価格が上下に動くのを見て、消費者も生産者も自らの行動を変化させている。  
金融は、家計や企業の消費や生産を助ける働きをしているのだ。

## ■ 財政と国民の福祉からみた日本経済（第17時～第20時）

市場経済において、財政にはどのような役割と課題があるのだろうか。  
少子高齢化は、我が国の財政にどのような影響を及ぼしているだろうか。



企業に公正で安全な経済活動を促すなど、政府は市場経済の中で多くの役割を担っているのだ。

## ■ これからの日本経済と社会（第21時～第22時）

経済成長と真の豊かさとはどうあるべきだろうか。



持続可能な地域の将来のために、私たちや自治体、企業に求められることは何だろう。

## ■ 単元のまとめ（第23時）

日本経済の重要課題は何だと考えますか。また、その課題を解決するために、どのような取組が必要だと考えますか。単元の学習を通して分かったことや考えたことを生かして自分の言葉で表現してみよう。



単元の学習を終えた今、コンビニエンスストアをどこに開店しますか。

### 💡 ポイント 💡

- 各単位時間は、学習課題の設定→個・協働による追究→個によるまとめ→振り返り（新たな問いの発見）の学習過程を基本としています。
- 学習内容の構造化を図り、各単位時間の学習を総合して、単元を通じた学習課題を考察するデザインになっています。また、学習の成果を踏まえて、単元導入の活動を振り返ることで、自分の学びの広がりや深まりを実感させています。

「学習者主体の授業」を実現する単元計画(P16~17)の第1時の実践例  
 本時の題材名 「コンビニエンスストアをどこに開店したらよいか」(1/23 時間)

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 導入の場面で、生徒にとって身近なコンビニエンスストアに着目させ、学習に対する興味・関心を高める。
- 展開のコンビニエンスストアの立地について考察する学習活動では、思考ツールや学習形態の自己選択・自己決定を行わせ、自分の考えを広げ、深めることができるようにする。
- 終末の場面では、自分の考えを広げ、深めていくためには新たな視点を加えて考察する必要があることを実感させ、これからの経済学習につなげる。
- 互いの考えを参照したり、学習履歴を蓄積したりするための ICT 活用を図る。

〈導入〉

- 資料を見て、何の分布を示しているか予想する。  
 【資料】長島町、出水市、阿久根市におけるコンビニエンスストアの分布(地図)  
 【資料】コンビニエンスストアの店舗(写真)
- 本時の学習課題を設定する。

コンビニエンスストアをどこに開店したらよいだろうか。

【資料】「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」(教科書掲載資料)

- 自分がコンビニの経営者だったら、どこに出店するか個人で考える。



友達の意見を聞いていると、他に考えないといけないことがたくさんあるな。

みんなが出店する場所を決めた理由は何かな。



💡 ポイント 💡

- 生活圏におけるコンビニエンスストアの分布や写真を提示し、生活経験と結び付けながらコンビニエンスストアの立地を考察させるようにしています。

〈展開〉

- イメージマップやマトリクスなどの思考ツールを選択し、自分の考えを整理して、練り上げる。
- 必要に応じて、同じ考えや異なる考えの友達と意見交換を行う。



人の流れを考えると、この場所がよさそう。



この場所は、これから人口が増えそうぞ。

第4章 私たちの暮らしと経済-オープニング

名前 ( )

【学習課題】コンビニエンスストアをどこに開店したらよいだろうか。

① はじめの自分の考えとその理由  
 ( ) 店に開店する。  
 【理由】  
 ※ 考えを深めるために使う思考ツールは… ( )

② 同じ意見の人と考えを深めるよう。  
 ( ) 友達の考え ( ) 友達の考え ( ) 友達の考え

③ 異なる意見の人と考えるよう。  
 ( ) 友達の考え ( ) 友達の考え ( ) 友達の考え

④ 最終の自分の考えとその理由  
 ( ) 店に開店する!  
 【理由】

教科書掲載資料「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」の学習履歴を蓄積しよう。

### 💡ポイント💡

- 生徒が自分の考えを広げ、深めることができるように、思考を整理し、練り上げる方法や学習形態を自己選択・自己決定させています。
- 各生徒の考え(開店場所とその理由)について、端末を使って互いに参照できるようにしています。
- 教師は、生徒同士の意見交換を促すのみではなく、考えの内容やワークシートの記述等を踏まえ、新たな気付きにつながる働きかけを行っています。
  - ・ 社会的な見方・考え方を働かせるための助言(「経営者や消費者などの立場で、効率と公正などの視点から考えてみてはどうだろうか」)
  - ・ 明瞭化を促す発問(「それはどういうこと?」「誰が?」「誰に?」)
  - ・ 思考の転換や焦点化を図る発問(「それだけ?」「本当に?」)
  - ・ 推論をさせる発問(「もし…なら」「~だったらどう?」)

- 最終的な個人の考えをまとめ、発表する。



なるほど。〇〇さんの考えには気付かなかった。  
いろいろな考えがあって、どれがいいのかよく分からないな。

### 〈終末〉

- 自分の考えをさらに練り上げるためには、他にどのような情報(資料)があれば良かったかを考える。



店舗の建設費用や金融機関からの融資のこと、地域住民の願いなど、もっといろいろなことが分かるといいな。

### 💡ポイント💡

- 答えが一つとは限らない学習課題(コンビニエンスストアの立地)に対する考えを深めるためには、新たな問いを設けて追究する必要があることを生徒自身に実感させる学習過程の工夫が見られます。

- 単元を通した学習課題を設定し、今後の学習について見通しをもつ。

#### 【単元を通した学習課題】

日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか。

- 今後の学習計画を確認する。

これから経済の学習を進めていきます。この時間にみんなが考えた企業や消費者の活動、労働者のこと、我が国の経済のしくみなどについて、くわしく学んでいきましょう。

次の時間は、私たちの消費生活と経済の関わりをテーマにしていこう。これからの学習で分かったことや気付いたこと、疑問に感じたことはワークシートに記録していき、単元最後の時間に単元を通した学習課題に対する自分の考えをまとめられるようにしてください。



私たちは、コンビニなどで、いろいろな商品を買っているなあ。私たちの消費活動は、社会とどのようにつながっているのか、詳しく知りたいな。

「学習者主体の授業」を実現する一単位時間の実践例  
 「学習者主体の授業」実現プロジェクト実践校 西之表市立種子島中学校  
 中学校数学科 第1学年 「平面図形の見方を広げよう」(11/15時間)

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 前時に本時の学習課題を立て、家庭学習で自分の考え等をまとめ、それを基に本時はペア及び全体の協働的な学びから始めることで、意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えをより深めることができるようにする。
- 難易度の異なるワークシートや発展問題を準備し、生徒が自分の興味や関心、学習状況に応じて自己選択・自己決定できるようにし、自ら学びを調整し、50 分間の授業において、個別最適な学びを実現できるようにする。

(予習) 前時~家庭学習  
 <導入>

- 次時の学習問題を確認する。

種子島に住む智子さんと圭太さんは、種子島宇宙センターの近くで迫力のあるロケットを見に行きたいと考え、待ち合わせしました。2人が待ち合わせした場所Pを作図によって求めなさい。

<待ち合わせ場所>  
 2人がいる位置から等しい距離にある地点のうち、Aホテルから最も近いところ



- 解決の見通しをもつ



垂直二等分線の作図を使えば、解決できそうだな。



垂線の作図も使いそうだよ。

- 次時の目標を立てる。

【学習課題】

これまでに学習した作図をどのようにして利用して解けばよいだろうか。

- 問題の解決に取り組む。(※ここから家庭学習)

(本時)  
 <展開>

- 学習問題と学習課題を確認する。
- これまでに学習した垂線、垂直二等分線、角の二等分線の作図が、どのようなときに利用できるのか振り返る。
- どの作図を用いて考えたのか、理由も含めてペアやグループで説明するとともに、必要があれば自分の考えを修正する。

どのようなことに気をつけて説明すればいいかルーブリックで確認しましょう。



💡 ポイント 💡

- 生徒が予習で取り組んだ内容を本時まで確認し、一人一人の学習状況を的確に把握した上で、個への働きかけを具体的に検討することが必要です。
- 単元や節の冒頭で、「ゴールの見通し」と「プロセスの見通し」をより明確にするために、ルーブリックを活用して単元の目標を設定するとともに、ピアラーニングの際は、ルーブリックを基にどのように説明すればよいか等を明確にして意見交換できるようにすることが大切です。

- 全体で確認する。

□ 本時のまとめを行う

点や線に置き換えて、次のことに着目して作図をすればよい。

- ・ 1点から直線への最短距離・・・垂線
- ・ 2点から等しい距離・・・垂直二等分線
- ・ 2直線から等しい距離・・・角の二等分線

本時のまとめを自分なりの言葉で書きましょう。



□ 難易度別の適用問題に取り組む。

- ① 予習で取り組んだ問題よりも簡単な問題  
※利用する作図の考え方は一つ
- ② 予習で取り組んだ問題の類題  
※利用する作図の考え方は二つ
- ③ 身近な問題で作図を利用して解決する問題  
※利用する作図の考え方は複数

3種類の問題から、自分に合った問題を選んで解決してみましょう。個人で取り組んでも、ペアやグループで取り組んでも構いません。



予習の問題で完璧に説明できなかったから、まずは簡単な問題に挑戦しよう。



予習の問題は説明までできたから、もっと難しい問題に挑戦してみたいな。



予習の問題より難しそうだから、友達と話し合いながら解決したいな。

💡 ポイント 💡

- 問題解決ができるように、生徒の理解度に応じてこれまでの学習の蓄積（ノートや授業支援ツール等）やオンライン学習教材を準備し、机間指導の際に適切な助言を行うことが重要です。
- 教員は、生徒の学習の様子や達成状況を見取りながら、「難しすぎないか」「さらに挑戦できそうか」などと問い返すことで、生徒が自ら課題を調整できるように支援していくことが大切です。

〈終末〉

□ 本時の振り返りを行う。



振り返りシートに、ルーブリックを基にして、学習内容や学習方法について自己評価を記録しましょう。また、学びの振り返りについて、接続詞を入れて2文80字以内で記録しましょう。



💡 ポイント 💡

- 自分の学びを振り返る際に、「この授業でわかったこと」、「既習内容との関係性」、「自分の学びの変容」の視点で記述させることで、生徒は、自分がどのような学び方で、何が分かったのかなど自分の学びを客観的に捉え、自己調整を図ることができます。
- 振り返りの際に、ルーブリックを再掲示し、本時のめざす学びの姿を具体的に共有しておく必要があります。また、授業の過程で、ルーブリックを参照する場面を適宜設けることが大切です。
- 共同編集機能を備えたオンライン表計算ツールを活用して振り返りを行うことで、自分自身のこれまでの振り返りや、他者の振り返りを参照し、振り返りの内容の充実を図ることも効果的です。

□ 次時の学習について問題を把握し、学習課題を設定する。

学習者主体の視点から授業改善を図るための校内研修の実践例  
「学習者主体の授業」実現プロジェクト実践校 曾於市立月野小学校

校内研修充実のためのポイント

- 「学習者主体の授業」の視点から、指導の工夫が十分なされた授業をデザインする。
- 授業を参観する前に、全員で「本時で目指す児童生徒の姿」を共通理解し、授業を通して「その姿に迫れていたか」を意識する。
- 子供の学びの姿から、的確に事実を観察する。
- 導いた展望から、個人で何に取り組むのかについて、具体的に考察する。

1 授業前に、本時における目指す子供の姿及びそのための手立てを確認する。

**【本時で目指す児童生徒の姿】**

- 1 児童が課題・めあて・道具・活動・解決方法・学習時間・学習形態などを自ら選択し、自己調整しながら学びを深める姿
- 2 児童が進んで「聴き合い」、課題を解決するとともに、自分に必要な情報を「学び」としてノートやタブレットに残そうとする姿
- 3 児童が学びの成果を互いに交流し、振り返ることで学びをつなげようとする姿

この二つがリンクしているか、指導案検討の際にしっかり確認しましょう。

**【目指す児童生徒の姿への手立て】**

- 1 児童が学習の見通しをもてるように、教師からマイプランを提示し、自らのプランを立てたり、相手・場所・方法等を選択したりすることで学びに向かう姿勢を高める。また、自らの学びを選択させることで成果や課題に対する関心を高め、自己調整力が高まるようにする。
- 2 個に応じた学びが展開されるように、「マイプランで進めよう」を提示し、座席の配置や課題等を工夫して協働的な学びにつながるような環境を設定する。また、学びを分かりやすく伝えるために、「学びを深めるマイノート」に取り組ませることで、他者との学びが深まったりつながったりしやすくする。
- 3 ガイドを中心とした学習展開において、学びの成果を交流させることで新たな考えに気付いたり、自分の進捗状況を把握したりする機会を設定する。

2 授業における子供の学びの姿を観察し、事実のみを付箋に記録する。

**NGワードとは？**

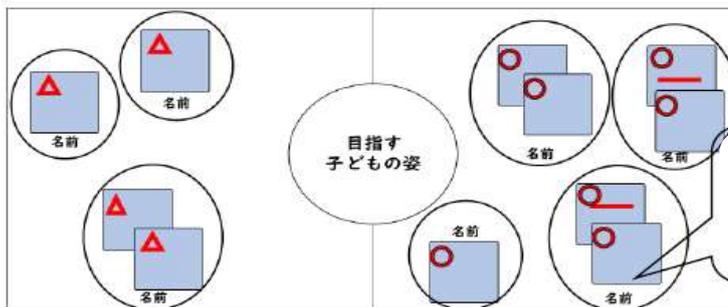
- ① ~だったと思う
- ② ○○のように見えた
- ③ 先生は、Aすべきだったのに…
- ④ これは面白いと思った
- ⑤ 非常にすばらしいことに…
- ⑥ 楽しそうに…

**事実のみを記録**

- ・ 生徒が~していた
- ・ 教師が○○と発言した
- ・ 図を使って生徒が説明をした
- ・ 机間指導で声をかけた
- ・ まとめて自分たちの言葉で文章を書かせた

基本的に、参観者は児童生徒の学びに介入せず見守るスタンスになります。  
また、「子供のノートへの書き込み内容」といった思考・判断・表現を記録すると、その後の議論が深まります。

3 観察した事実を、目指す姿に迫っていたもの(○)とそうでないもの(△)に分類し、グルーピングして「じっくりくる」名前を付ける。

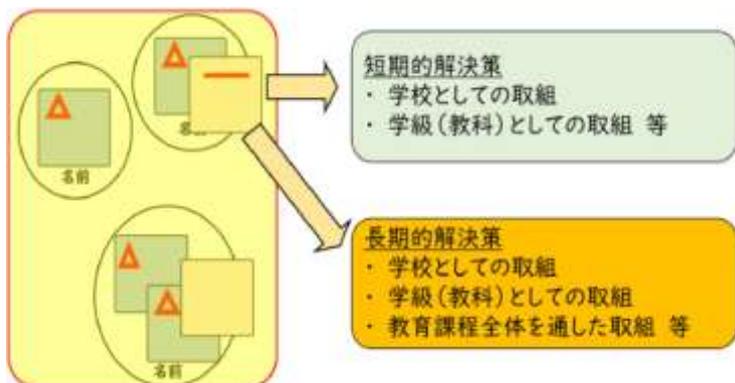


「端末活用」「班学習」といった教師の手立てや学習形態の名前ではなく、子供の姿で表しましょう。

この名前はなるべく一言で簡潔に表すことができる言葉が望ましい。

4 子供の姿（付箋に記入した事実）の分析から展望を導く

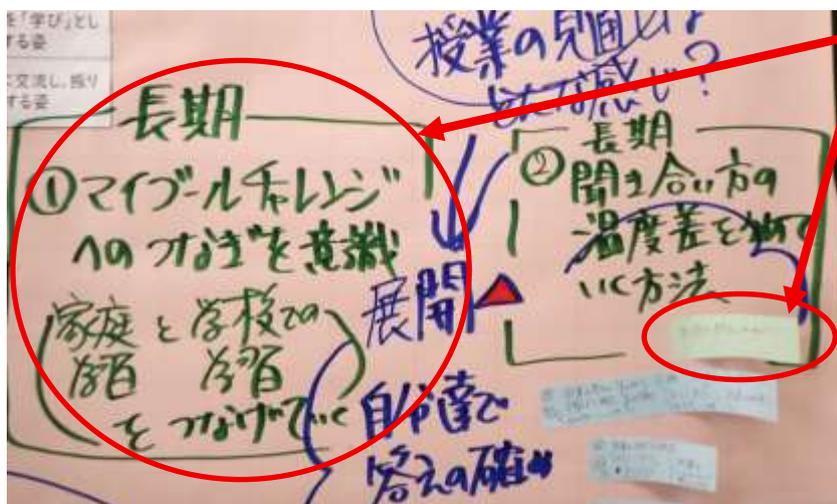
(1) △を付けたグループから一つ抽出し、なぜそうなったのかを**子供の目線で解釈**し、それを解決するためのアイデアをいくつか出し合い、それらを基に**短期的・長期的**に取り組みそうなことを書き出す。



**【月野小自校化のポイント】**

通常は、展望の根拠となる子供の姿を残すために、右のタイプの展望シートを使います。月野小では、下図のように、アイデアを色の違う付箋に書いて貼った後、長期で取り組みそうなこと（解決策）も空いたスペースに書き込んで、子供の姿から取り組みそうなことまでを見やすくすると同時に、時間短縮も図っています。

展望シート	
△の子供の姿に付けた名前	左の場面の子供の姿（付箋） *展望の根拠となる子供の事実を残しておきましょう
アイデア	
・ ここには、課題解決に向けたアイデアを簡条書きで記しましょう	
<b>短期的</b> 上記のアイデアを具体化し、ここには、明日から取り組みそうなことを記しましょう	<b>長期的</b> 上記のアイデアを具体化し、ここには、学年レベル、学校レベルで組織的かつ長期的に取り組んでいくことを記しましょう



右の赤枠内がアイデアを書いた付箋、左の赤枠内がそのアイデアを具体化（長期的に取り組む内容を構想）した部分です。学校として本プロジェクトで行う研修に対する取組が習熟すると、研修を更に充実させるためのアイデアも生まれます。学校の実態に応じて自校化を図ることは、とてもよいことです。ただし、自校化を図る際は、研修の本質から離れないよう十分注意してください。



(2) グループ毎に導いた展望を発表し合い、今後できそうなことについて意見を出し合い、後日研修係でまとめて提案する。

**展望を事後の具体的な指導に生かすための工夫（出水市立東出水小学校の実践）**



各グループの展望を班の代表がホワイトボードにそれぞれ記入し、全員でポイントとなる部分を共有する。（分析の一覧表ができあがる！）ことに加えて…

**【ここがポイント!】**

ここで研修を終了とせず、共有した展望やポイントから、学校全体で共通理解、共通実践するとよいこと、個人として今後に生かしたいことなどを考える時間を確保（5分程度）し、個人でワークシートに書き出す。

その後、ワークシートに記入したことをいくつか全体で共有し、個人でできそうなことはすぐに取りかかる、学校として取り組むことは研修係から後日提案するという流れで行っている。

この部分を充実させることで、研修の成果を具体的な教科指導等に生かすことができますね。